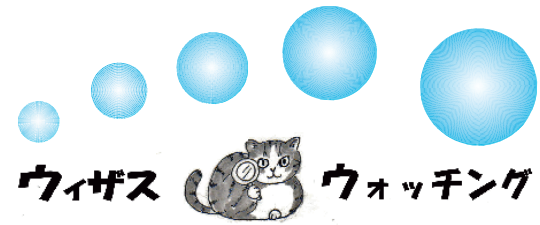


「ウィザス」は、ウィズアス=with us “共に生きるー男女共生社会”の理念を表しています。

特集

女性差別の昔と今

ウィザス



性暴力被害者の支援機関

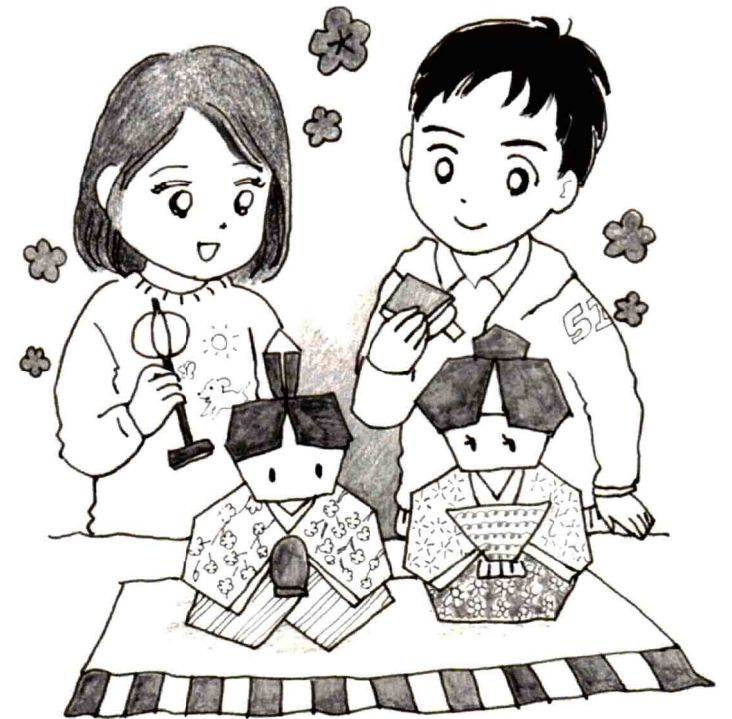
もしも、性暴力被害に遭ったら。心や体が嫌な目に遭ったら。あなたの助けになるかもしれない支援機関があります。自分や知り合いを守る情報として、いっしょかをお知らせします。

- 性暴力被害者支援センター・ひょうご（一人一人の状況に合った総合的な支援を一ヶ所ですることを目指した、ワンストップセンターです。ホットライン、面接相談、病院でのつきそいなど、主に急性期支援を行っています。）
- 相談・問合せ 06・6480・1155（月～金、9時半～16時半、土日祝・年末年始休み）
- メール相談あり。詳しくはセンター・ひょうごのホームページへ。

「性暴力被害者のためのバーチャル・ワンストップ支援センター」センター・ひょうごが運営するウェブサイト。兵庫県内にある支援機関を、被害別、時間経過（急性期・中長期別）、地域別にリストアップできます。当事者の方が自分に必要な支援がわかり、選ぶことができます。

「サチコ」(SACHICHI)子どもセンター」19歳までの子どもを性暴力から守るための相談電話で、ウィメンズセンター大阪内にあります。ホームページでは、性暴力に関する子どもにも分かりやすく説明しています。

●相談・問合せ 06・6632・0699（水～日、14時～20時）
なるべく早い時期に、適切なケアを受けることが、とても大事です。



ワーク・ライフ・バランス

萌えキャラと女性差別？ A.S



秘密厳守 女性相談 面接相談

無料相談・予約専用電話 Tel. 38-2022

～ご相談には、予約が必要です～

■内容 ①心の悩み相談
②家事調停相談

■日時 ①第1・2・4金曜日(午前10時～午後4時)
②第1火曜日(午前10時～正午)
③第3金曜日(午前11時～午後4時)
※一時保育(無料)〈要予約〉

【法律相談】■3月25日(土)・4月12日(水)・5月13日(土)
■午後2時～4時(1人30分)〈要予約〉

女性活躍相談(面接)が始まります!!

女性活躍コーディネーターが、女性の活躍の第一歩を応援します。再就労・起業・地域活動をしたいと考えている女性やその家族からの相談をお受けします。
【相談は無料*1人50分*要予約*秘密厳守*一時保育あり】

3月の相談日

9日(木)	15日(水)	21日(火)	27日(月)
10時～	13時半～	13時半～	10時～

- ◆上記相談日以外も相談可
- ◆4月以降の相談日は広報あしやをご覧ください。

☎ 予約専用電話 (0797) 38-2022

ウィザスあしやフェスタ2017

芦屋市男女共同参画団体協議会 20 団体と市が主催するフェスタを、今年度も下記のとおり開催します。奮ってご参加ください。

◆テーマ 学ぼう 話そう 楽しもう

◆日時 ①3月12日(日) ②3月12日(日)～18日(土)

◆内容 ①チャリティーバザー/喫茶コーナー/交流ひろば・共同制作など
②ワークショップ/グループ展示 など

◆会場 ウィザスあしや & リードあしや(公光分庁舎・北館)

一時保育つき大人の読書タイム

子育て中の皆さん、毎月第3月曜日と火曜日の2時間、ゆっくりと好きな本を読みませんか？
あなたの読書中、お子さんはウィザスあしやの保育室でお預かりします。

- 日時 【月曜日】3月27日・4月17日・5月15日
【火曜日】3月27日・4月18日・5月16日
いずれも<午前10時～正午>
- 会場 男女共同参画センター ウィザスあしや
- 対象 子育て中の親(祖父母を含む)と子ども(2歳以上未就学児) 各回先着各4人(2歳未満児の同伴不可)
- 一時保育 各回とも、先着・各4人(1人300円)〈要予約〉
- 申し込み 各月1日から、電話(Tel.38-2023)でセンターへ

編集後記

センター通信ウィザスは、男女共同参画センターのスタッフとボランティアによって作られています。毎月一回ミーティングが開催され、都度、多様なことがテーマとして(せりょう)上がります。入稿⇒査読⇒チェック⇒原稿の修正などの過程を経て完成します。査読の段階でいろいろな意見が出て、齟齬・誤解・緊張・軋轢などが生じることがあります。末席から、常々「ストレスを感じている方もいらっしゃるのでは」と思っています。

また、これも民主主義の一つの側面と納得しています。(編集委員 伏野)

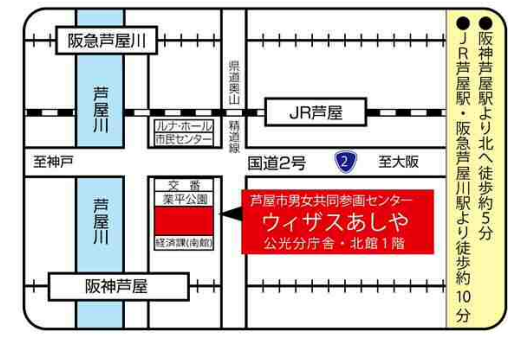
ウィザス No. 88

平成 29 年 3 月 発行 (春号)

編集・発行 芦屋市男女共同参画センター ウィザスあしや

〒659-0065 芦屋市公光町5番8号 公光分庁舎・北館1階
TEL: 0797-38-2023 / FAX: 0797-38-2175
Eメール josei-ce@city.ashiya.lg.jp

■開館：月曜日～土曜日・午前9時～午後5時30分
■休館：日曜日・祝日・年末年始(12月28日～1月4日)
ホームページ <http://www.city.ashiya.lg.jp/danjo/withus/centerwithus.html>



女性差別の昔と今

普段気が付かなければ、昔からこうだからと伝統とか歴史という名のもとに見過ごされている女性差別があります。普段の生活に支障がなければ、それでいいのでしょうか？女性が男性と同じように参加したり、行きたいところへ行ける社会は実現しているのでしょうか？今も、昔と同じ根っここの女性差別は、形を変えて出現している...？！



女人禁制の「文化(?)」

◆色々な場面で残っています

1991年、当時内閣官房長官だった森山真弓さんが、内閣総理大臣に代わって大相撲初場所優勝力士に内閣総理大臣賞を贈ろうとしましたが、相撲協会は「相撲は日本の伝統文化であり、神事である」として、女性が土俵にのぼることを拒否しました。「女人禁制」は男女平等に反するとして賛否両論が噴出しました。

あれから26年、未だ「女人禁制」の風習が残っています。仏教、神道(神事)、芸能、スポーツ(大相撲、甲子園の高校野球)、祭り、山(修行の場としての大峰山)などです。

古代日本は母系社会であったといわれています。天照大御神や邪馬台国の女王卑弥呼は女性であり、女性が輝いていた時代があったことがわかります。それがいつ頃から女性を蔑視するようになったのでしょうか。「女人禁制」とは「女性蔑視」を意味します。

◆昔々に生まれた不思議な考え

日本には古くから、女性は「穢れ」しているという考え方がありました。「穢れ」とは、女性の出血(月経・出産)を指しています。血が流れるということに忌み嫌ったため、不浄の存在となったようです。

すべての人間が女性から生まれていることを考えると、女性が「穢れ」しているという考えはいかかなものなのでしょうか。

また、仏教では修行の妨げになるとして、女性が修行の場へ立入ることを禁じてきました。これには、女性は男性の心を乱す煩惱とされ結界が生まれた、という説があります。心を乱すのは男性の側であり、女性に罪はないはずですが。

戦後70年が経ち、男女平等が叫ばれて久しいのですが、今なお残る「女人禁制」の存在。「真の男女平等」の実現には、なお長い年月を必要とするということでしょうか。

「性的モノ化」

◆性的モノ化とは？

ポティラインを強調した広告、美人コンテスト、過剰なまでに女性の性を前面に出したアニメやコミックなど、女性の「性」が商品化されています。女性がモノ化されていく現象は、ますます増加しているようです。

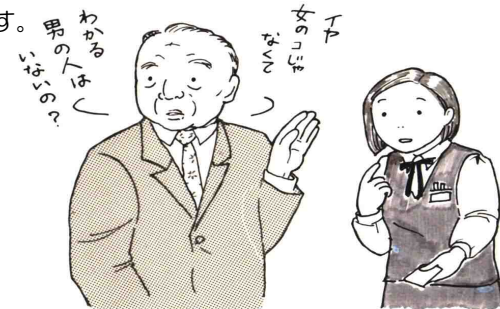
女性の「性的モノ化」とは女性の性的身体のみがその人格から切り離され、単なる道具としてしか扱われないことです。女性を、目的のための手段や道具として位置づけ、自立的であること、自己決定能力を持つことを拒絶しているのです。

◆「女子」の商品化

「性的モノ化」は、1990年代盛んに議論されました。それから約30年、現在ではPCやスマートフォンなど情報機器の広がりにより、情報の入手はいとも簡単に行うことができるようになりました。情報に簡単にアクセスできることで、女性

のモノ化は更に広く深く蔓延してしまっているように感じなりません。周りを見渡すと「女子力」「女子会」「女子アナ」など、わざとらしい「女子」の強調もありますが、女性自身でさえも、その深刻さに気付くづらい世の中となっています。

今、身の回りであたかも普通のことのように存在している性的モノ化に気づくには、慎重に研ぎ澄ました感覚を持つことが必要です。



Question?? 「ホントにいいの？」な疑問

出会いカフェの女性料金はなぜタダ？

「出会いカフェ」をご存知ですか。シングルスパーと呼ばれる形態のものもあります。男女の出会いを仲介する飲食店なのですが、多くは、女性との出会いが目当ての男性から、店がお金をもらって成り立つ構造のようです。女性は無料または少額で、ドリンクやお菓子を飲食したり、マンガを読んだり、化粧品を自由に利用できるなど、そこでゆっくり過ごすことができるよう工夫されています。

「タダなんてラッキー、ここでお茶しよう！」と気軽に利用する若い女性もいるそう。一見、安全に見えますが、女性が自分自身の時間を切り売りし、男性に様々な期待をもたせている、ということはきちんと自覚しなければなりません。

女性の料金が無料か極端に低料金の場合、なぜ男性に比べて安いのか、「ラッキー」では済まさずと考え、自分自身を大切にしたい姿勢が必要です。



大きな胸に幼い顔の萌えキャラって？

一昨年、ある市が観光PRのために公認した、海女さんをモチーフにした「萌えキャラ」が物議を醸しました。幼い顔に身体は大人で、裾をはだけた姿に「性的な部分を過剰に強調していて不快だ」と、海女さん達を含む市民が公認撤回を要望、市が撤回したのです。

また別の市では、うなぎを少女に擬人化し、飼育するという「ふるさと納税」のPR動画も問題になりました。

そんなことに目くじらを立てなくても、という意見もありますが、「少女の顔に胸を強調した女性キャラ」をネットやメディアでよく目にします。女性を性的なモノとして捉えて抵抗がない感性は、女性差別につながりかねないのに、日常にすっかり浸透しているのが現状です。

海外では、「これは児童ポルノでは」と指摘することもあるそう。

ごく普通にこうした「萌えキャラ」がある状況を、一度考えてみませんか。

～女性にも大切、ライフプランのススメ～

1980年代、女性の婚期はクリスマスケーキに例えられていました。クリスマスケーキは26日以降、価値が落ちるため、女性も26歳になるまでに結婚すべきだという考え方です。さすがに今はそのようなことは言われませんが、女性の身体について気を付けることがあります。

35歳以上で初めて出産することを「高齢出産」と呼び、近年増えてきています。女性が仕事に打ち込み30代になり、そろそろ子どもが欲しいと思ったとき、目の前にあるのは「高齢出産」です。胎児のときから女性のおなかにある卵子は、年齢とともに老化してしまうため、妊娠しやすい時期は35歳までといわれています。最近では「卵子の冷凍保存」という方法もひとつの選択肢としてあるようですが、体の機能として、卵子は本人の意思や努力だけでは若く保つことはできません。妊娠出産には年齢的な制限があるのです。

キーワードは... 「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」

この言葉を耳にしたことはありますか？

平成28年に芦屋市が行った市民意識調査では、この言葉を聞いたことがあると答えた人は3.1%でした。

「性と生殖に関する健康と権利」と訳されますが、その意味はあまり知られていません。これは、すべてのカップルと個人が子どもをいつ何人産むかなどを、責任をもって自由に決定でき、そのための情報と手段を得ることができるという考え方です。

卵子の老化などをはじめとした、性と生殖に関する正確な情報を集め、自分がどのような仕事に就き、何歳くらいで子どもを産みたいのかという人生の計画を早くから立てることは、とても大切なことです。

また、女性が自由に人生を決定するためには、仕事か出産かのどちらか一つを選ぶのではなく、妊娠出産をしても、本人が望めば仕事を続けていくことが容易にできる社会の仕組みづくりも必要ではないでしょうか。

